

◆授業のポイント◆

- ・ 役割分担ごとに作品を分析する協同的な学習の工夫
- ・ 複眼的に作品を捉えるための比較・分析の指導の工夫

国語科学学習指導案

学 級 3年1組 (男子18名 女子17名 計35名)
場 所 3年2組教室 (3年校舎1階)
授業者 教 諭 姥 英 一 郎

- 1 単 元 「高瀬舟」を読んで批評する～登場人物の設定や展開、表現の仕方を評価する～
2 題 材 「高瀬舟」
3 本時の実際 (3/6)

- (1) 目 標 批評をするために、作品の人物の設定の仕方や構造の効果を捉え、文章全体の理解を深めることができる。
(2) 展 開

過程	主な学習活動	時間 形態	指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイントについて
導 入	1 前時までの学習を想起する。	2 一斉	・ 前時までの学習を電子黒板で確認させる。
	2 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 人物設定と作品の構造を整理し、作品を読み深めよう。	3 一斉	・ 学習目標を提示するとともに、学習の進め方を明確にする。 【学習の進め方】 1 分析の仕方を観点別に確認する。 2 観点1 (人物設定) と観点2 (構造) について整理する。 3 それぞれの観点から分かったことを相互交流する。
展 開	3 モデルを参考にして、観点1 (人物設定) と観点2 (作品の構造) の整理の仕方を確認する。	5 一斉	・ 観点ごとに分かれさせて以下の点を理解させる。 観点1 人物相関図の作り方について 観点2 【設定】【発端】【展開】【転換点】【結末】という作品の構造について ※ グループ内で観点別に役割を決めさせる。
	4 それぞれの観点ごとに作品を考える。 (観点1のグループ) ① 登場人物の確認をする。 ② 中心人物の言動と中心人物に影響を与えた人物の言動や出来事を人物相関図にまとめる。 (観点2のグループ) ① 【設定】【発端】【展開】【転換点】【結末】を構造図にまとめる。 ② 【展開】か【転換点】に絞って自分の考えをまとめる。	20 グループ	※ 中心人物の心情を表す描写やそれらに影響を与えた人物の言動などを付箋に記入し、シーケンスチャートまたは人物相関図に貼り付けさせる。 ◎ 登場人物の関係や中心人物の変化を分かりやすく整理することができたか。 (評価対象 人物相関図・シーケンスチャート) ※ 【転換点】は教科書本文の「……そこに疑いが生じて、どうしても解せぬのである」(P132L10～11)とする。 ◎ 【展開】や【転換点】について、自分の考えをまとめることができたか。 (評価対象 構造図)
	5 観点1と観点2の比較から分かることをまとめる。	10 グループ	・ 時系列に並べた人物設定と構造図に現れた話の展開に共通点がないかを考えさせる。
	6 相互交流を通して考えたことを発表する。	5 一斉	◎ 人物設定と作品の展開には関連があることを捉えることができたか。
終末	7 本時のまとめを聞き、次時への意欲をもつ。	5 一斉	・ 次時の学習内容を予告する。